

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

政策(1) 地域コミュニティ活動の活性化

■ 10年後にめざすべき将来像

区民一人ひとりが自分の地域に関心をもち、年齢、国籍、性のあり方、障害の有無などにとらわれることなく、互いを尊重し合った温かい交流を行うことのできる地域社会が実現しています。

町会・自治会、住区住民会議を始めとする様々な団体によって、様々な地域コミュニティ活動が活発に展開される中で、区民相互・団体相互で力を出し合って、助け合い、支え合うとともに、行政と連携・協力を図りながら地域課題の解決に取り組まれています。また、そうした地域コミュニティ活動の担い手となる人材を育てる環境が整っています。

■ 現状と課題

地域コミュニティの基礎的団体である町会・自治会は、地縁組織として住民相互の交流や親睦を深める活動を通し、地域のコミュニティ形成に大きな力を発揮してきました。また、日常的な活動においても、区との協力関係によって地域の課題解決に重要な役割を果たしてきました。

区では昭和49（1974）年以降、小学校通学区域程度の広さを一つの生活圏域として22の「住区」を設定し、地域課題解決のための協議を行う「住区住民会議」を中心としたまちづくりを進め、区民のコミュニティ活動を始めとする地域活動の拠点、また、交流の場として、集会施設を含む住区センターを整備し、その活動を支援してきました。

しかし、少子高齢化をはじめとする人口構造の変化や、生活環境の多様化、生活の利便性向上は、人と人との関わりを少なくし、地域の共同体意識を低下させ、地域活動団体の担い手不足や、役員の高齢化・固定化という問題も招いています。

多様化している地域課題の解決には、その課題を地域コミュニティが自ら解決していく力が必要です。そのためには、区民一人ひとりが自分の地域に関心を持ち、地域の活動団体の自主性・自立性を尊重しつつ、地域と行政、また地域住民同士の連携・協力がより一層重要です。こうした地域コミュニティの活性化に向けて、地域の多様な活動団体同士が自由に参加できる環境を整えることが求められています。

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
区民が地域課題の解決に自ら取り組み、コミュニティ活動が活発になっていると思う区民の割合	調査中	調査中

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 施策一覧

施策① 地域課題を解決する地域コミュニティ活動への支援

【主な取組】

- ・ 地域コミュニティの基礎となる町会・自治会への支援
- ・ 誰もが参加できる場・協議の場としての住区住民会議への支援
- ・ 職員に対する地域コミュニティの意識啓発

施策② 地域コミュニティ団体を核とした様々な団体の連携・協力の促進


【主な取組】

- ・ 様々な団体や住民同士の情報交換・交流、連携・協力した活動のための仕組みづくり
- ・ 地域活動拠点の維持・発展

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① 地域課題を解決する地域コミュニティ活動への支援

■ 施策の概要

<p>積極的な地域コミュニティへの支援とともに、次代の担い手が育つ環境づくりに取り組みます。また、区民一人ひとりが、自身の地域に興味、関心を持ち、課題解決を図っていくことができるよう、連携・協力関係を築いている町会・自治会や住区住民会議と共に、地域コミュニティの活性化に努めます。</p> <p>関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、地域課題の解決に向けて「ともに考え、ともにつくる」という協働の理念の下、様々な場面での区民参加や地域の活動団体との連携・協力による課題解決の取組をより積極的に進めます。</p>	<p>○関連するSDGsのゴール</p> 
--	--

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
地域活動の参加経験	25.5%	35%
町会・自治会が行う地域活動の認知度	28.0%	50%
住区住民会議が行う地域活動の認知度	14.3%	50%
町会・自治会加入率	52.1%	60%

■ 現状と課題

- 人口構造の変化や生活環境の多様化に伴い、人と人との関わりが少なくなっています。
- 目黒区においても、区民の地域への関心度が低下し、地域コミュニティを支える町会・自治会などの組織を運営する担い手不足や、役員の高齢化・固定化という問題を招いています。また、住区住民会議の活動では、町会・自治会との活動の重複、地域の様々な活動団体との連携・協力や住民参加の広がり不足、地域への浸透度の低さなどの課題が生じています。
- 地域課題の解決には、地域コミュニティの活動団体と行政の連携・協力が不可欠です。区民一人ひとりが地域課題に関心を持ち、積極的に解決に向けて取り組んでいく機運を醸成させるとともに、活発な地域活動を支える環境の整備が求められています。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ 地域コミュニティの基礎となる町会・自治会への支援

町会・自治会が地域の人と人とのつながりをつくり、地域のコミュニティ形成の基礎となることを明確に位置付け、活動内容の周知など町会・自治会への加入促進につながる取組、ICTを活用した広報媒体の多様化を支援する取組、地域の人材確保・人材育成を支援する取組を行います。

活動の自主性・自立性を尊重しながら、各町会・自治会に共通する課題への取組や新たな地域課題の解決に向けた取組等に対して積極的に支援を行います。

◆ 誰もが参加できる場・協議の場としての住区住民会議への支援

地域課題の解決のためには、地域の誰もが参加でき、地域のことを話し合う「開かれた場」が必要です。目黒区は、住区住民会議がその役割を担えるよう、住区住民会議の役割について地域への周知を図るとともに、組織や運営についての相談・助言を行い、新たな地域課題の解決に向けた取組等に対して積極的に支援を行います。

◆ 職員に対する地域コミュニティの意識啓発

地域コミュニティの活性化が区政運営にとっての重要事項であることを認識できるよう、採用後2・3年目の職員を対象とし、地域コミュニティ活動の重要性や役割等について職員研修を行います。


■ 関連計画

- ・ 目黒区協働推進方針
- ・ コミュニティ施策の今後の進め方
- ・ 目黒区区有施設見直し計画
- ・ 目黒区学校施設更新計画

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策② 地域コミュニティ団体を核とした様々な団体の連携・協力の促進

■ 施策の概要

<p>目黒区には、町会・自治会やPTA、商店会といった地域にかかわる活動団体のほか、各種のNPO、ボランティア団体、また、目黒区独自の住区住民会議など、数多くの団体があります。そういった環境を活かして地域の多様な課題に対し、様々な活動団体が足りないところを補い合い、柔軟に連携・協力しながら地域の状況や課題について意見交換ができる「協議の場」や仕組みをつくります。</p> <p>関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、地域の様々な活動団体同士が連携・協力する関係の構築を支援していきます。</p>	○関連するSDGsのゴール
	

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
地域活動団体（地域コミュニティ団体）の住区会議室（地域活動拠点）利用件数	20,363件 （令和元年度）	26,000件
防災・防犯・環境など地域の課題解決に向けた連携・協力の認知度	—	50%

■ 現状と課題

- 社会の変化により、これまでになかった様々な区民のニーズが生まれ、それに伴って地域における課題も多様化しています。
- 多様な地域課題を解決していくためには、町会・自治会や住区住民会議、特定の目的の実現のために活動するNPOやボランティア団体が、柔軟に連携・協力できるつながりを持ち、それぞれの得意分野を活かし、不得意な分野を補い合うことが重要です。
- 団体同士の連携・協力の関係を広げていくためには、複数の団体の連携・協力による活動への支援を充実していくとともに、地域の課題を共有するための場が必要であり、その場を起点として、対等な関係で連携・協力して地域の課題に取り組むことが求められます。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ 様々な団体や住民同士の情報交換・交流、連携・協力した活動のための仕組みづくり

多様化する地域課題の解決には、町会・自治会や住区住民会議だけでなく、様々な活動団体がそれぞれの特徴を生かして、連携・協力していく必要があります。様々な活動団体が活発に活動できる環境を整えていくため、地域の課題解決につながるまちづくり活動を行う団体への補助の仕組みを再編・整理し、地域課題の解決に向けた取組をより効果的に支援していきます。

◆ 地域活動拠点の維持・発展

目黒区が整備してきた住区会議室は、地域コミュニティを支える団体の活動拠点となる「地域活動拠点機能」と、一般貸出を行う「集会施設機能」の2つの機能を有しています。今後、地域活動拠点については、コミュニティの核となる町会・自治会、住区住民会議等が効果的に利用できる場としていくとともに、集会施設機能については、区有施設見直しの観点で複合化、多機能化を図りながら、効果的・効率的な施設としていきます。

■ 関連計画

- ・ 目黒区協働推進方針
- ・ コミュニティ施策の今後の進め方
- ・ 目黒区区有施設見直し計画
- ・ 目黒区学校施設更新計画

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

基本政策（2）地域に根ざした産業の振興

■ 10年後にめざすべき将来像

区内中小企業の経営基盤が強化され、社会経済情勢の変化に中小企業自らの力で対応し、持続的発展をめざしています。

区内農業は、数少ない緑地である都市農地として維持され、収穫野菜の近隣への販売、区民の農業体験等を通じ、地域に親しまれる産業として根づいています。

目黒区の産業的特徴を活かしながら、商業・工業・農業等あらゆる産業分野において、良質な人材や技術者の育成が図られ、地域産業の活性化が図られています。

創業・起業を志向する人々に対する支援によって、経営の安定性・継続性の向上と雇用や新しい産業的価値の創出が促進されています。

■ 現状と課題

目黒区工業の実態（平成31（2019）年）における平成27（2015）年の目黒区内製造業の事業所数は325事業所となっており、平成15（2003）年の645事業所から320事業所が減少しています。従業者規模で見ると、従業者が9人以下の事業所が79.1%であり、全体的に小規模な事業所が多いと言えます。減少の原因としては、事業所の区外への移転や後継者問題などによる工場の廃業等が考えられます。

また、区内農業においても農林業センサス（令和2（2020）年実施）では、令和2（2020）年2月現在の農家は7戸で、平成22（2010）年に比べると農家数が半数近くまで減少しています。

一方、経済センサス活動調査（平成28（2016）年実施）によると、卸・小売業、宿泊・飲食サービス業は構成比の割合が高く、交通の利便性やお洒落なまちのイメージなど、目黒区の特徴がうかがえる産業構造となっています。

目黒区は目黒区産業振興ビジョンを平成31（2019）年3月に改定し、新たなチャレンジと安定・継続をめざして、まちを活かす魅力を生み出す産業振興を基本理念として5つの主要な方針「1 地域産業の担い手の育成・確保、2 地域産業の維持・発展、3 事業者の更なる成長促進、4 魅力にあふれた商店街づくり、5 地域資源を活かしたまちの魅力の向上」を定めました。これに基づき、今後は、現在の優れた特性や住環境をさらに伸長させていくことに留意しながら産業振興を進めていくことが重要です。また、ポストコロナの新たな生活様式を念頭におき、中小企業を取り巻く環境の変化に柔軟かつ的確に対応できる施策を実施し、地域経済の活性化を通じて豊かな区民生活と地域共生社会の実現に向けた取組を進めていく必要があります。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
区内の企業やお店が地域で活発に経済活動をしていると思う区民の割合	調査中	調査中

■ 施策一覧

施策① 地域産業の維持・発展への基盤づくり

【主な取組】

- ・ 地域産業の担い手の育成・確保
- ・ 経営改善の支援
- ・ ビジネス機会の創出支援
- ・ 中小企業センター等を核とした区内産業振興の拠点の検討

施策② 創業・起業への支援

【主な取組】

- ・ 創業支援の充実
- ・ 創業者・起業家の定着支援
- ・ 中小企業センター等を核とした区内産業振興の拠点の検討（再掲）

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① 地域産業の維持・発展への基盤づくり

■ 施策の概要

目黒区の産業がこれからも継続的に発展していくため、事業承継や人材育成など地域産業を維持、発展させていく施策や経営基盤の強化や経営力の向上に資する支援に取り組んでいきます。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は中小企業事業者及び関係団体と連携しながら、地域経済の活性化を図り、人が集い活力あるまちをめざしていきます。

○関連する
SDGsの
ゴール



■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
直近3年間の売上が「増加」又は「横ばい」とする区内中小企業者の割合	51.8%	55%
ICTを活用する企業の割合	63.4%	80%

■ 現状と課題

- 区内事業所数の推移をみると、平成28（2016）年に減少したものの令和元（2019）年には事業所数が増加し、産業大分類別の構成比は「卸売業、小売業」が最も多く、ついで「宿泊業、飲食サービス業」となっています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく変化する事業環境に合わせて、将来に向けた経営戦略を立案し、事業を見直していくことが中小企業共通の課題となっています。このため、それぞれの中小企業がめざす方向性に合わせたきめ細かな支援が必要となります。
- 目黒区の産業がこれからも継続的に発展していくためには、経営基盤の強化や効率的な経営が図られるよう、資金調達、販路拡大及び経営力の向上に資する経営相談や経営セミナー等を通じて、事業の安定性・継続性への支援に取り組む必要があります。
- また、都内の有効求人倍率は減少しており、今後、人生100年時代を見据えた高齢者の雇用や女性の活躍推進、若者等の雇用など、将来の人口減少、超高齢社会到来への対応として、就労環境の整備に向けた支援に取り組み、誰もが生き生きと働き続けられる環境づくりが必要です。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ 地域産業の担い手の育成・確保

目黒区の産業がこれからも継続的に発展していくため、商業・工業・農業等の産業分野において、人材育成や事業承継など、地域産業を維持・発展させていくための施策を進めます。

◆ 経営改善の支援

融資あっせんにより日常の資金繰りやICT導入等を支援するとともに、区内中小企業者の経営面や事業の見直し、事業承継など中小企業診断士が様々な経営に関する相談に応じ、事業の安定性や継続性を高めるため、経営基盤の安定に向けた支援を行います。

◆ ビジネス機会の創出支援

事業者ニーズを把握しながら、国内外への展示会などの出展や事業者の情報発信の支援を行うとともに、事業者相互の交流機会や産学連携の促進等により、質の高いサービスや新たなビジネスへとつなげていく取組を促進します。

◆ 中小企業センター等を核とした区内産業振興の拠点の検討

中小企業のニーズや創業・起業に対応したきめ細やかな支援のため、ポストコロナや国際社会等、社会経済情勢に対応できる中小企業センター機能の充実を図り、新ビジネスの創出サポートや産業振興の維持・発展に取り組みます。

■ 関連計画

- ・ 目黒区産業振興ビジョン

施策② 創業・起業への支援

■ 施策の概要

目黒区の産業的特徴を活かしながら、新しい価値・新しい魅力を創出しようとする事業者支援に取り組みます。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は産業競争力強化法に基づく創業支援事業の拡充に取り組みます。また、新しい生活様式やデジタル化など、社会・経済状況の変化に対応した創業支援とともに、今後の中小企業センター機能を強化し、グローバル化社会に対応できる創業支援機能の充実を民間活力も含めて進めていきます。

○関連する
SDGsの
ゴール



基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
年間創業者数	55件	70件
創業相談件数	130件	150件

■ 現状と課題

- 目黒区内には、多くの人々を惹きつける魅力的な商業集積があり、小規模ながらも日本の産業を下支えするような製造業も存在します。数少ない都市農業は新鮮な農産物の生産に加え、環境、防災など様々な役割を果たしています。
- 一方、小売業の年間販売額は年々減少しており、製造業の事業所数も減少していることから、区内産業が維持・発展していくためには、創業・起業を志向する方を支援し、経営の安定性・継続性を促し、新しい産業的価値の創出による区内産業の持続的発展をめざす必要があります。目黒区は、創業支援として、区民等による新規事業の創造等を支援するため、平成28（2016）年1月に産業競争力強化法に基づく、創業支援等事業計画の認定を受けて、創業支援セミナーとしての「実践めぐり創業塾、同（兼業・副業型）、同（フォローアップ講座）」を実施するとともに、創業相談窓口における相談体制の充実を図ってきました。今後は、女性や若年層、シニアなど、幅広い年代における創業の増加や、コロナ禍などの社会不安を機に創業・起業をめざす方など、変化する創業動機、多様化する業種に対応していく必要があります。
- このため、増加していく様々な相談者への対応をはじめ、現在実施している講座や相談といった知識修得と合わせて、創業資金融資や補助金、活動拠点や交流の場など、支援の充実を図っていく必要があります。

■ 主な取組

◆ 創業支援の充実

創業相談、創業支援セミナー、創業資金融資や補助金などにより目黒区内での創業を促進させるとともに、フォローアップ講座、創業セミナー応用編などにより創業間もない事業者の安定的な経営を図ります。

◆ 創業者・起業家の定着支援

レンタルオフィスやシェアオフィスなどの創業・起業向けスペースの情報提供や、助成制度の充実に取り組み、目黒区内に定着し地域に根づく産業の育成を図ります。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

◆ 中小企業センター等を核とした区内産業振興の拠点の検討（再掲）

中小企業のニーズや創業・起業に対応したきめ細やかな支援のため、ポストコロナや国際社会等、社会経済情勢に対応できる中小企業センター機能の充実を図り、新ビジネスの創出サポートや区内産業の持続的発展に取り組みます。

■ 関連計画

- ・ 目黒区産業振興ビジョン

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

政策(3) 魅力と活力にあふれる商店街づくり

■ 10年後にめざすべき将来像

自然や歴史、文化など地域資源を生かした個性豊かな商店街が、持続的発展をめざしています。商店街がより利用されるようになるため、安全・安心のコミュニティづくりや環境整備に取り組み、地域の核として、にぎやかで魅力的な商店街になっています。

商店街が観光資源の一つとして、区内外から認知され、多くの来街者が行きかう、まちの魅力につながっています。

■ 現状と課題

目黒区内には多くの人々にぎわう商店街が多数あり、特に、私鉄沿線には、各駅に商店街があり、消費者だけでなく、出店を考える商業者にとっても魅力的で、競争が激しく商業者の入れ替わりなど、出店する事業者も多いことが特徴です。区政に対する意識調査（平成30（2018）年度実施）では、暮らしやすいと感じる点では、「買い物など日常生活が便利」は、58%と2番目に高い回答を得ており、さらに目黒区世論調査（令和2（2020）年度実施）においても目黒区に居住する理由のうち、「身近な商店街など買い物に便利だから」を理由にしている区民は25%に上っています。また、産業振興に関する意識調査（平成29（2017）年度実施）では、区内商店街をよく利用する人、ときどき利用する人を合わせると65%と高く、区民の買い物の場としての重要さがうかがえます。

一方、近隣区における新たな大規模商業施設やインターネットを使った通信販売などの影響、店舗の老朽化や店主の高齢化、後継者不足等により商店数は減少しています。また、新規出店した店舗も商店会のメリットが感じられず加入を控える等、商店会への加入率も低下しています。

商店街は地域住民の日々の生活を支え、地域の雇用や消費を生み出し、まちのにぎわいをつくるという、欠かすことのできない重要な役割を担っていることから、商店会としての魅力やメリットを高めていくことが重要です。このため、商店街の活動を支援するとともに、日々商店街を利用する人が意識的に商店街と関わっていくことを促すことで、より魅力にあふれた商店街となるよう、取組を進めていく必要があります。

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
区内の商店街は魅力的でにぎわいがあると思う区民の割合	調査中	調査中

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 施策一覧

施策① 魅力ある商店街づくりの推進

【主な取組】

- ・ 活気ある商店街づくりの推進
- ・ 暮らしを支える買い物環境の充実
- ・ 商店街の組織力強化
- ・ 相談体制の強化や情報共有等の充実

施策② 地域資源を活かしたまちの魅力の向上


【主な取組】

- ・ まちの魅力に触れる機会の創出
- ・ 訪れたいまちづくり
- ・ 商店街施設の整備等

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① 魅力ある商店街づくりの推進

■ 施策の概要

<p>安心して買い物ができ、地域コミュニティを支え、交流やにぎわいのある商店街を中心として、魅力ある買い物環境を形成していきます。</p> <p>関連するSDGsのゴールを踏まえ、地域経済の活性化や雇用の創出、環境負荷の低減等、地域ごとの実情を踏まえた商店街の活動を支援し、区民の日常生活を支えにぎわいのあるまちづくりを進めていきます。</p>	<p>○関連するSDGsのゴール</p> 
--	--

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
イベント補助事業の実績数 ※コロナを考慮し現在値は令和元年度とした。	126件	140件
商店会加盟店舗数	4,400店	4,600店

■ 現状と課題

- 平成29（2017）年度に実施した「産業振興に関する意識調査」では、商店街の利用状況は、区内商店街をよく利用する人は24.3%、ときどき利用する人を合計すると65.1%となり、半数以上の人々が商店街を利用しています。また、産業の観点から、目黒区がどのようなまちになってほしいか、との設問では、「魅力的な商店・飲食店が多いまち」が62.0%で最も多く、ついで「徒歩圏内で生活必需品がそろい便利なまち」が60.5%となっています。
- 日々の生活には、買い物が欠かせないことから、身近で魅力的な商業集積をかたちづくり、さらに人々を引き寄せられる商店街として、持続的発展に向けて、各商店街の活動支援に取り組む必要があります。
- また、地域特性を生かしたまちの魅力や価値を高め、併せて商店街や地域との連携・協力を高めるためのイベント開催や環境整備に関する支援など、今後も継続していくことが重要です。さらに、商店街としてSDGsや住環境の質を高めるような取組等、商店街の個性を生かした、まちの魅力と地域の活性化につながる支援も必要です。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ 活気ある商店街づくりの推進

個々の商店街がもつ個性を活かしたイベントの実施や、装飾が施された環境にやさしいLED街路灯の整備、商店街への新規出店の支援等を行うとともに、商店街の魅力を発信します。

◆ 暮らしを支える買い物環境の充実

歩行者空間の安全確保やまちのルールづくりとその遵守、バリアフリーの推進など商店街の安全・安心の維持・向上を推進するとともに、タバコなどのポイ捨てごみがない美しい商店街をつくれます。

◆ 商店街の組織力強化

商店街で働く者同士の意見交換会を実施したり、商店会運営に対する支援を行ったりすることにより、商業者の連携・協力の促進を図るとともに、商店街や個店が次世代に継承できる取組を推進します。

◆ 相談体制の強化や情報共有等の充実

商店会運営や商店の経営課題の解決のため、商店会への専門家派遣、商店街関係者との懇談、意見交換を実施しながら、バランスのとれた業種の構成や配置に対する検討も支援します。

■ 関連計画

- ・ 目黒区産業振興ビジョン

施策② 地域資源を活かしたまちの魅力の向上

■ 施策の概要

区民の買い物の場、地域コミュニティを支え、交流やにぎわいの場である商店街を中心として、区民にとって魅力ある買い物環境を形成していきます。また、観光資源の一つとして、飲食業や小売業、宿泊業や運輸業など様々な産業に経済的な波及効果をもたらすと同時に、地域文化の振興やまちのイメージアップ、定住促進など、まちの魅力そのものを向上させることが期待されることから、産業振興の観点からも積極的に取り組んでいきます。

SDGsのゴールを踏まえ、小売りや消費者による廃棄食料の削減をはじめ、ごみの流出を減らし、観光等による地域産業の活性化を図りながら、持続可能な生産消費形態に向け、経済と生活環境とのバランスがとれた地域経済の発展を促します。

○関連する
SDGsの
ゴール



基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
小売業、飲食店の事業者数	3,806事業者	4,200事業者

■ 現状と課題

- 平成29（2017）年度に実施した「産業振興に関する意識調査」では、消費行動の特徴は、普段の買い物や外食の際に意識することとして、質の良さや健康への配慮、デザインの良さが多くなっています。また、こだわりの銘柄・メーカーがある人、環境やエコに配慮して選ぶ人も多く、いずれも価格を重視する人を上回っています。また、区政に対する意識調査（平成30（2018）年度実施）のなかで、暮らしやすいと感じる点の上位4位に「街並みや街の雰囲気が良い」が26.7%となっています。住みたい・訪れたいと思われる商店街を持続するために、質の高い商店・飲食店や環境に配慮され安全・安心して買い物ができる充実したまちが求められています。
- このため、人が集い活力あふれるまちを実現するために、区民、事業者、目黒区が連携・協力し、地域の歴史や文化、産業など様々な地域資源を活用しながら、魅力ある商店街の持続的な発展を支える必要があります。

■ 主な取組

◆ まちの魅力に触れる機会の創出

デジタルサイネージやホームページの多言語化などによる観光資源としての情報発信の充実と、めぐろ観光まちづくり協会と連携し、歴史や文化、桜などの自然やおしゃれなお店といった地域資源のPRとともに、目黒区ならではの個性豊かな商店街イベント実施を支援し、まちのにぎわいを創出するとともにイメージアップやブランド化を図ります。

◆ 訪れたいまちづくり

愛着が生まれる景観づくりを進め、みどりの保全・創出を図ることで快適なまち歩きができる都市空間を形成するとともに、WiFi環境や自転車シェアリング事業等の実施により訪れる人の利便性向上を図ります。

◆ 商店街施設の整備等

地区計画事業によるまちづくりや、無電柱化などの推進に合わせて、商店街の活性化を図り、回遊性のある商店街として、観光資源につなげていきます。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 関連計画

- ・ 目黒区産業振興ビジョン
- ・ 目黒区観光ビジョン

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

政策(4) 芸術文化の香りあふれるまちづくり

■ 10年後にめざすべき将来像

多くの区民が芸術文化の重要性を再認識し、優れた芸術文化に触れるとともに、様々な表現方法で自由かつ意欲的に芸術文化活動に取り組んでいます。

地域における多様な芸術文化活動が盛んに行われており、芸術文化を通じた地域のにぎわいが創出され、芸術文化の香りあふれるまちが実現しています。

■ 現状と課題

目黒区は、これまで芸術文化の鑑賞の機会や発表の場の提供、芸術文化活動に対する支援などの取組をとおして、地域の活性化を図ってきました。さらに幅広い世代の区民が多様な芸術文化に触れられる様々な事業を展開してきており、区民のもつ目黒区のイメージとして「文化あふれるまち」が根付いています。

一方で時代の変化により、子どもの多様な未来の創造、ワークライフバランスの実現、地域のコミュニケーションの創出など、芸術文化に触れる機会がますます求められています。さらに、インターネット環境の発展に伴い、芸術文化活動の発信が容易になったことで、多様な文化を感受することが可能となっています。このため、芸術文化活動の支援を柔軟に行い、区民が生涯にわたって優れた芸術文化に触れ、主体的な芸術文化活動を実施していけるようにする必要があります。

芸術文化の振興は、活力あふれた魅力あるまちづくりにも資する取組であるため、教育、福祉、観光などの分野の垣根を越え、目黒区内の団体、企業、大学等と連携し、芸術文化活動の幅を広げていくよう事業を展開していくことが重要です。年齢や国籍、障害の有無などにかかわらず、誰もが質の高い芸術文化を享受し、芸術文化活動の促進につなげていくことで、新たな人々の関係やネットワークを生み出していくことが求められています。

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
芸術文化を身近に感じ、芸術文化に触れる機会が多いと感じる区民の割合	調査中	調査中

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 施策一覧

施策① 芸術文化に親しむ機会の提供

【主な取組】

- ・ 芸術文化への出会いの充実
- ・ 伝統文化への理解の促進
- ・ 芸術文化施設、団体、企業、大学等との連携・協力の充実
- ・ 芸術文化に関する情報発信の推進

施策② 芸術文化活動への支援とつながりの創出


【主な取組】

- ・ 自主的な芸術文化活動の支援
- ・ ノーマライゼーション社会における芸術文化活動支援
- ・ 新たなつながりの創出

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① 芸術文化に親しむ機会の提供

■ 施策の概要

<p>年齢や国籍、障害の有無などにかかわらず、区民の誰もが様々な芸術文化に親しむ機会が得られるよう、優れた芸術文化に直接触れることはもとより、インターネットによる映像配信などを効果的に活用しながら、さらに機会の充実を図っていきます。</p> <p>関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、すべての区民が心豊かで文化あふれる暮らしを送ることができるよう、誰もが身近な場所で多様な芸術文化に触れる機会の充実に取り組んでいきます。</p>	<p>○関連するSDGsのゴール</p> 
--	--

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
美術館展覧会入館者数	39,410人	60,000人
アウトリーチ事業参加者数	3,192人	5,000人

■ 現状と課題

- 日常生活の中で、多様な芸術文化に触れることは、新たな発見や貴重な体験となるなど、楽しさや感動を味わえる機会となり、一人ひとりの心を豊かにします。このため、芸術文化に身近に触れる機会の充実を図ることが必要となっています。
- 「芸術文化に関する意識調査」の結果では、これからの目黒区の芸術文化の振興に最も期待することとして、「民間活力を活用した芸術文化事業の推進」が25.1%、「区が主導で開始する芸術文化にかかわる催物の開催」が21.2%、「芸術文化を取り入れた学校教育や生涯学習の推進」が21.1%など、多くの場面で芸術文化に親しむ機会が求められていることがわかります。
- このため、目黒区内外の芸術文化施設、団体、企業、大学などと幅広く連携・協力していくとともに、新たな生活様式を踏まえた事業展開や情報発信について工夫や改善を一層進め、誰もが芸術文化を享受することのできる環境を整えていくことが必要となっています。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■主な取組

◆ 芸術文化への出会いの充実

インターネットによる映像配信などを適宜活用しながら、芸術文化の様々な分野に出会える機会を充実していくとともに、アウトリーチ活動などを通じて、新たに興味を抱く機会を創出していきます。

◆ 伝統文化への理解の促進

伝統文化のもつ歴史や背景について、多くの区民が理解を深めるとともに、その重要性について認識し、後継者の育成や鑑賞の機会の充実につながるよう、伝統文化の体験、鑑賞機会の提供や発表の機会を設けます。

◆ 芸術文化施設、団体、企業、大学等との連携・協力の充実

目黒区内外の芸術文化にかかわる施設、社会貢献や地域貢献を行う団体、企業、大学等との連携を強化し、多様な芸術文化を区民に鑑賞してもらう機会を提供します。

◆ 芸術文化に関する情報発信の推進

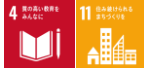
すべての区民が芸術文化に触れる機会を得ることができるよう、状況に合った手段を選択して効果的に情報を発信していきます。

■関連計画

- ・めぐろ芸術文化振興プラン

施策② 芸術文化活動への支援とつながりの創出

■施策の概要

<p>子どもの頃から芸術文化に触れる楽しさや感動を味わい、また、誰もが生きがいをもって楽しめるよう、様々な区民の芸術文化活動への支援に取り組んでいきます。</p> <p>関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、公益財団法人目黒区芸術文化振興財団と連携・協力しながら、区民の誰もが芸術文化に親しみ、生涯にわたって主体的な芸術文化活動を行っていくための必要な支援に取り組んでいきます。</p>	<p>○関連するSDGsのゴール</p> 
--	--

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
めぐろパーシモンホール・中目黒GTプラザホール利用率	84.0%	95%
区民ギャラリー利用率	95.8%	100%
後援名義等承認件数	55件	80件

■ 現状と課題

- 芸術文化の分野は、人々が年齢、性別、国籍などにとらわれることなく、芸術文化という共通事項をきっかけとし、様々な境界を超えて人と人の「縁」を結ぶことができます。目黒区は、この「縁」を「文化縁」とし、「文化縁」の形成に力を入れてきました。区民が主体的に芸術文化活動を行う中で、「文化縁」の充実を図り、コミュニケーションを活性化させ、ネットワークを広げ、豊かなライフスタイルを創り上げていくことが重要となります。
- 「芸術文化に関する意識調査」の結果では、芸術文化に触れる機会の提供以外に、「地域の人と共に継続的に行う趣味や生きがいとなる芸術文化活動」「地域のサークルや芸術文化の活動団体への支援」「芸術文化活動が困難な人たちへの支援」が必要であると感じている区民が多く、芸術文化の活動を行う機会の提供や支援が求められています。
- 区民一人ひとりが、世代や生活形態、障害の有無にかかわらず芸術文化に親しみ、生涯にわたって自ら芸術文化活動を楽しめるように、場の提供を行い、多様な活動や人とのつながりを広げるための取組を支援することが必要です。

■ 主な取組

◆ 自主的な芸術文化活動の支援

すべての区民が自主的な芸術文化活動をとおして、地域での交流機会を増やし、ライフスタイルを充実させていけるよう、場の提供や団体の活動を支援します。

◆ ノーマライゼーション社会における芸術文化活動支援

障害の有無にかかわらず、誰もが芸術文化に親しみ、芸術文化活動を楽しめるよう、参加型事業などの展開を図っていきます。

◆ 新たなつながりの創出

区民が取り組んでいる芸術文化活動の機会を充実させることにより、それらを楽しむ人と人との新たなつながりを創出していきます。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 関連計画

- ・ めぐる芸術文化振興プラン

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

政策(5) まちのにぎわいの創出

■ 10年後にめざすべき将来像

区民を主体とした、他自治体との交流を積極的に支援することで、文化の異なる地域との交流が深まることにより、にぎわいが充実しています。

区民、団体、事業者、目黒区それぞれの連携・協力のもと、地域のあらゆる観光資源を活用し、区民相互または区民と来訪者相互の交流を推進することによって人々の心を豊かにし、まちの活力が高まっています。

■ 現状と課題

目黒区は、都心に近く、緑豊かで文化的なまちというイメージが定着しています。旧前田家本邸、目黒区総合庁舎、寺社など文化的価値の高い資源が多くあり、近年では桜の時期の目黒川や大橋ジャンクション屋上の目黒天空庭園など、区内外から多くの人が訪れる観光資源が増えています。しかし、まだ知られていない観光資源もあり、地域の特性を生かした魅力あるまちづくりを一層進めていく必要があります。

また、目黒区は交通の利便性が良いこともあり、今後増えてくる来訪者の対応として、様々な観光資源の情報発信が重要となってきたことから、年齢や国籍、障害の有無などに応じ、効果的に発信していくことが求められています。そして、魅力ある観光コンテンツの充実とともに、地域に対する環境への配慮や整備、来訪者をつなぐ人材の育成などを進め、観光を通じたにぎわいのあるまちを形成することが必要となっています。

そして、にぎわいあふれる豊かな区民生活の実現に向けては、友好都市をはじめ各地域との幅広い交流を進めるとともに、地域の活性化と相互の発展を図ってきました。宮城県角田市、気仙沼市に加え、平成29（2017）年に新たに石川県金沢市と友好都市協定を締結し、様々な交流を行っています。また、全国的な知名度を誇る「目黒のさんま祭」で有名な目黒区民まつりや、目黒区商工まつりなどを通じ、友好都市以外の様々な自治体とも交流を行っています。そして、海外の友好都市の中国北京市東城区や韓国ソウル特別市中浪区とは、未来を担う青少年を中心とした国際交流に力をいれています。

今後、まちのにぎわいを創出していくためには、友好都市をはじめとする各地域との連携をさらに深め、互いの魅力を高め合う必要があります。そして、地域住民主体の交流を一層活発化することが課題となっています。

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
地域の観光資源の活用や、友好都市などとの交流により、まちがにぎわっていると認める区民の割合	調査中	調査中

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 施策一覧

施策① 多様な地域交流の促進

【主な取組】

- ・ 自治体間の交流推進
- ・ 住民交流などへの参加促進

施策② 観光まちづくりの推進

【主な取組】

- ・ 観光資源の発掘と活用
- ・ 訪れたいまちへ向けた環境づくり
- ・ 魅力ある情報の収集と発信

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① 多様な地域交流の促進

■ 施策の概要

これまで進めてきた交流を基礎としながら、地域の活性化と相互発展をめざし、オンラインでの交流等を含めた新たな視点から都市間の連携、交流事業の更なる充実を図っていきます。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、区民、団体、事業者等との協働を積極的に進め、公民連携を意識した自治体交流を進めていきます。

○関連する
SDGsの
ゴール



■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
友好都市等との交流事業数	20事業	60事業

■ 現状と課題

- 目黒区は国内・海外を含めた5つの友好都市を中心として、幅広い自治体交流を行っています。国内交流では、令和3年度で45回目を迎える目黒区民まつりへの各自治体の参加や、各都市との個別の交流等様々な形で交流を行っています。また、国際交流では、スポーツや文化を通じた青少年交流を行っており、今後は様々な分野での交流を進めていきます。新型コロナウイルス感染症拡大後は、新たにオンラインでの交流も始まっており、距離や時間を超えて交流が行えることで、交流がより一層広がることが期待されています。
- 区民生活をより豊かなものにするために、対面での交流はもとより新しい生活様式を踏まえた交流の手法を検討し、更に地域交流を促進することが求められています。様々な方法で地域交流を促進し、まちのにぎわいを創出していきます。

■ 主な取組

◆ 自治体間の交流推進

友好都市を中心とした自治体と幅広い交流を推進し、相互理解と信頼を深めると共に、互いの魅力を高め合いながら、地域の活性化と発展を図ります。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

◆ 住民交流などへの参加促進

住民同士の活発な交流が行われるよう、交流事業の周知活動の拡充や、交流活動への積極的な支援を行っていきます。

■ 関連計画

- ・めぐろ多文化共生推進ビジョン

施策② 観光まちづくりの推進

■ 施策の概要

様々な観光資源を通じて、住む人にも訪れる人にも魅力が感じられるようなにぎわいのあるまちづくりを進めていきます。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、一般社団法人めぐろ観光まちづくり協会と連携しながら、目黒区独自の歴史、文化、自然、産業、行事、食などの地域資源を生かした、楽しく快適な「まち歩き」のできる観光まちづくりを推進していきます。

○関連する
SDGsの
ゴール



■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
観光ボランティアガイド等の人数	20人	80人
まち歩き事業の参加者数	225人	500人

■ 現状と課題

- 国は、観光立国実現に向けて、関係行政機関の綿密な連携を確保しながら取り組むため、「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」を策定しました。また、東京都は「PRIME 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン」等を策定し、都内各地域の観光資源を開発・洗練していくことで多彩な魅力に触れてもらい、国内外から訪れる多くの旅行者が快適に観光を楽しむことができる受入環境の整備を進めました。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

- 目黒区においても、平成27（2015）年に目黒区観光ビジョンを改定し、社会状況や環境の変化に対応した観光まちづくりを推進しています。区内には、歴史ある伝統と文化を併せもつ多くの見どころや観光資源を保有しており、近年では都市観光のスタイルとして定着してきた「まち歩き観光」のニーズがますます増加しています。区民をはじめ、様々な目的で目黒区を訪れる多くの人々の「まち歩き」がもたらす効果を、活力と魅力あるまちにつなげていくため、観光まちづくりを推進していく必要があります。今後、目黒区の地域特性を生かした様々な観光資源を活用し、SNSを始めとするデジタルツールによる積極的な情報発信により、誰もが魅力を感じられるような賑わいのあるまちづくりに取り組んでいくことが重要な課題となっています。

■ 主な取組

◆ 観光資源の発掘と活用

観光資源の魅力を発掘し、多くの人々が目黒区の魅力に触れる機会をつくれます。また、芸術文化や国際交流など様々な分野と連携し、観光資源の活用を図ります。

◆ 訪れたいまちへ向けた環境づくり

様々な目黒区の魅力について理解を深め、楽しめるまち歩き事業を推進するとともに、区内の歴史、文化、景観や観光スポット等について広く知識をもった観光ボランティアガイド等の育成を図っていきます。

◆ 魅力ある情報の収集と発信

目黒区内の施設やイベントなどの観光資源の情報を幅広く収集するとともに、デジタルツールを活用して、まちの魅力を区民や来訪者へ積極的に発信していきます。

■ 関連計画

- ・ 目黒区観光ビジョン

(このページは白紙です)

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

(6) 互いの文化を認め合い共に生きるまちづくり

■ 10年後にめざすべき将来像

行政手続きの多言語化や、相談機能の充実を図ると共に、やさしい日本語の普及を推進することで、外国人住民が地域で安心して暮らしています。

大使館、国際交流団体、企業、学校などの地域の関係団体との連携をさらに強化し、外国人住民も積極的に地域活動に参加することで、外国人ならではの視点や文化をまちづくりに生かしています。

地域活動や文化交流をとおして、外国人と日本人が互いの文化の違いを認識し、多様な価値観、文化を認め合う社会を形成しています。それにより、国籍関係なく、あらゆる人が目黒区への愛着や誇りをもって生活しています。

■ 現状と課題

令和3（2021）年3月末には区内の外国人人口は約9,000人、外国人住民の割合は3.2%となっています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う入国制限の影響により、近年増加し続けていた人口は減少となりましたが、新たな在留資格の創設など、今後とも外国人住民・労働者の変動が見込まれます。

また、目黒区の特色として、区内の大使館は23区の中で4番目に多く、外国人住民の国籍数も115か国とあらゆる地域に及んでいます。このような状況の中、目黒区世論調査（令和2（2020）年度実施）においては、74.5%の区民が「多様性を認め合う地域社会の実現」について重要であると回答しており、だれもがお互いの文化を認め合い、地域社会の一員として共に支え合う社会をつくる必要があります。

そのためには、外国人住民が安心して暮らせる環境づくり、大使館や国際交流団体などの関係団体と連携した地域活動への参加、そして海外の友好都市との交流をとおして、あらゆる文化に対する相互理解を促進することが重要です。

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
国籍を問わず誰もが生活しやすく、互いの文化や価値観を理解していると思う区民の割合	調査中	調査中

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 施策一覧

施策① 外国人住民への生活支援

【主な取組】

- ・ 多言語による行政情報の発信及び窓口での通訳タブレットの普及
- ・ 「やさしい日本語」の普及
- ・ 日本語学習支援の推進

施策② 相互理解と地域参画の促進

【主な取組】

- ・ 外国人の地域社会への参加の促進
- ・ 多様な団体との連携による国際交流の推進
- ・ 海外都市との交流推進

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① 外国人住民への生活支援

■ 施策の概要

外国人住民が安心して暮らせる目黒区を実現するため、やさしい日本語を用いた情報発信、行政情報の多言語化や日本語学習支援を進めていきます。また、令和2（2020）年度から導入した通訳タブレットの利用を促進し、行政窓口と円滑にコミュニケーションがとれるよう支援します。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、必要な情報を正確にすばやく伝達し、地域とのつながりを実感できる取組を実施することにより、外国人住民を含めたあらゆる人が安心して生活できる社会をつくりま

○関連する
SDGsの
ゴール



■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
多言語で情報提供している出版物等	17件	30件
通訳タブレット年間利用件数	242件	720件
日本語教室への参加人数	5,137人	8,000人

■ 現状と課題

- 目黒区内には多くの大使館があり、外国人住民の国籍数も115か国に及び、多様な文化をもつ人々が暮らしています。また、国は平成30（2018）年の入管法の改正によって、新たな在留資格を創設し、外国人材の受け入れを推進しています。さらに、大規模災害のおそれや感染症による医療情報の必要性、急速なデジタル化の進展など、近年外国人を取り巻く環境は大きく変化しています。
- そのような状況の中、目黒区の外国人住民が安心して生活できる環境づくりを進めることが求められています。日本人と変わりなく必要な情報を正確にすばやく受け取ることができる取組や、やさしい日本語を用いた情報発信、行政情報の多言語化やイラストやユニバーサルデザインを用いる等、情報発信方法のさらなる充実を図ることが重要です。
- 多様な文化、国籍をもつ人々が暮らしやすい目黒区をめざし、言語や生活習慣の違いなどから生じる様々な生活上の課題に対応することが求められています。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ 多言語による行政情報の発信及び窓口での通訳タブレットの普及

目黒区HPやSNSなどのアクセスしやすい媒体により、生活にかかわる行政情報やサービスについて、多言語での情報発信を行います。また、外国人の窓口サービス向上のため、通訳タブレットの利用を促進します。

◆ 「やさしい日本語」の普及

あらゆる人にわかりやすい「やさしい日本語」を用いて行政情報の発信を行います。区民や職員を対象に研修を実施することで認知度を上げ、様々な媒体での普及をめざします。

◆ 日本語学習支援の推進

公益財団法人目黒区国際交流協会や目黒区内の支援団体が実施する日本語教室を広く周知し、外国人住民が生活上に必要な日本語学習を支援します。特に、未来の地域社会の担い手となる、外国人児童を対象とした日本語教室などの取組について、関係団体と連携しながら推進していきます。

■ 関連計画

- ・めぐろ多文化共生推進ビジョン

施策② 相互理解と地域参画の促進

■ 施策の概要

目黒区内の関係団体と共に外国人住民が言葉や文化の壁を乗り越えて、地域活動に参画する取組を推進します。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、公益財団法人目黒区国際交流協会をはじめとした外国人支援団体や区内大使館と連携し、それぞれの国や文化を紹介する機会を区民に提供することで、外国人住民が地域住民の一員として活動に参画できるような仕組みづくりを進めます。

○関連する
SDGsの
ゴール



基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
「多様性を認め合う地域社会の実現について」重要であると感じる区民の割合	74.5%	90%
国際交流協会ボランティア登録者数	677人	1,000人

■ 現状と課題

- 近年、目黒区の外国人人口は増加しており、令和2（2020）年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、人口が減少しましたが、今後も一定の外国人住民が区内で暮らしていくことが想定されます。今後、少子高齢化が進む中でコミュニティを持続していくためには、外国人住民を地域社会の中に受け入れ、地域社会を支える担い手として共に歩んでいく姿勢が求められます。そのためには、外国人住民に対する偏見や差別をなくすことに加え、多様な価値観や文化をお互いに理解し、尊重していくことが必要となります。
- また、平成29（2017）年から目黒区の友好都市である中国北京市東城区、韓国ソウル特別市中浪区による三区間交流事業が始まり、未来を担う青少年同士の国際交流がスタートしました。海外都市との交流は区民の国際理解の向上や相互理解の促進に繋がります。
- 互いの文化へのふれあいを通じたコミュニティの形成、地域社会において必要となる人の交流やつながり、助け合いを促す環境整備、そして「誰ひとり取り残さない」多様性と包摂性のある社会へ繋がる取組が求められています。

■ 主な取組

◆ 外国人の地域社会への参加の促進

より多くの外国人住民に地域活動へ参加してもらうため、イベント等の情報提供や町会・自治会への加入などを積極的に呼びかけ、地域社会への参加を促進します。

◆ 多様な団体との連携による国際交流の推進

目黒区内の12の大使館や公益財団法人目黒区国際交流協会をはじめとした外国人支援団体と協力し、各国や地域の文化、伝統等を区民が理解する機会を作り、国際交流を推進します。

◆ 海外都市との交流推進

国際理解の向上のため、現在行っている青少年同士のスポーツ交流に加え、目黒区民が海外都市の文化等に触れることができる交流機会の充実を図ります。また、新たな交流について、調査・研究を進めます。

■ 関連計画

- ・めぐろ多文化共生推進ビジョン

(このページは白紙です)

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

政策(7) スポーツに親しむ環境づくり

■ 10年後にめざすべき将来像

子どもから高齢者まで、また障害の有無にかかわらず、区民がライフステージに応じたスポーツ活動ができるようスポーツの場と機会の提供がされており、多くの区民がスポーツに取り組んでいます。

スポーツに取り組むことにより、区民の心身の健康が増進され、健康寿命の延伸が図られています。

地域で仲間とスポーツを行うことにより、区民同士の交流が生まれ、コミュニティが形成され、人が集い活力あるまちが実現しています。

■ 現状と課題

目黒区スポーツ推進計画（平成28（2016）年度～令和7（2025）年度）では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%とすることを目標にしています。目黒区世論調査（令和2（2020）年度実施）では、スポーツ実施率は、前回の同調査（平成29（2017）年度実施）から7.1ポイント上がり、52.2%になりました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大後は45.8%とやや低調となっており、新しい生活様式の中で、区民が安全・安心にスポーツができる環境を整備し、スポーツ実施率のさらなる向上を図ることが重要です。また、区民の平均寿命の延びに伴う健康寿命の延伸や地域コミュニティの形成を図っていく必要があります。スポーツ活動は心身両面にわたる健康増進や地域におけるつながりを広げていく上で大きな役割を担っています。

目黒区では、関係組織と連携してスポーツを通じた区民の健康の維持・増進を図っていくとともに、地域におけるつながりを広げていくため、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて実施した機運醸成事業をレガシーとしていくなど、コミュニティ形成につながるスポーツ環境の整備が重要となっています。

■ 区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
誰もが気軽にスポーツを楽しむことができ、スポーツを通じた交流が生まれていると思う区民の割合	調査中	調査中

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 施策一覧

施策① スポーツに親しむ機会の提供

【主な取組】

- ・ スポーツ・運動の場の提供の充実
- ・ 一般公開や教室・講習会等の充実
- ・ 様々な視点からの機会提供の充実
- ・ 障害者の運動機会の提供

施策② スポーツを通じた健康づくりの支援

【主な取組】

- ・ 身近な場における運動・スポーツ機会の普及
- ・ 健康・体力づくり相談事業の推進

施策③ スポーツを通じたつながりの創出


【主な取組】

- ・ 交流の場の創出
- ・ スポーツ指導者の育成
- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じたレガシーの継承

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策① スポーツに親しむ機会の提供

■ 施策の概要

<p>スポーツを通じて、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、人格の形成を図るとともに、人々や地域間の交流を促進し、人と人とのつながりを創出していきます。</p> <p>関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、障害者を含めた子どもから高齢者まで幅広い世代が健康的な生活をおくれるよう、スポーツ・運動の実施率の向上を図る仕組みづくりを進めます。</p>	○関連するSDGsのゴール
	

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
1年間ほとんど運動を行わなかった人の割合	26.5%	15%
成人の週1回以上のスポーツ実施率	52.2%	65%

■ 現状と課題

- 目黒区では、平成28（2016）年度からの10年間を対象とした目黒区スポーツ推進計画で「成人の週一回以上のスポーツ実施率を65%」に、「一年に一度もスポーツを行わなかった人を15%」となることを目標に、これまで、多様な区民を対象にスポーツに親しむ機会の提供や参画できるスポーツイベントの企画など様々な事業を実施することにより、スポーツ実施率の向上に努めています。その結果、運動・スポーツを行う方が確実に増加する傾向が見られていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大後については、その影響により、低下する傾向が見られます。
- そのため、新しい生活様式を踏まえた実施率の向上に取り組んでいく必要があり、より一層様々なプログラムの実施を通じてスポーツに親しむ機会の提供の充実に取り組んでいく必要があります。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ スポーツ・運動の場の提供の充実

日常的に身近な場所で気軽にスポーツ・運動を行う意識を高めるとともに、運動習慣を身に付け健康の維持増進を図るため、そのきっかけとなる場の提供の充実に取り組みます。

◆ 一般公開や教室・講習会等の充実

指定管理者の専門性や事業実施のノウハウを生かし、各施設の一般公開や教室・講習会等について、新しい生活様式を踏まえながら、区民ニーズを捉えたより魅力あるものとし、充実を図ります。

◆ 様々な視点からの機会提供の充実

より多くの方にスポーツ・運動の魅力を伝えるため、「行う」ことに加えて「観る」「支える」など様々な視点からスポーツ・運動に親しむ機会の提供の充実に取り組みます。

◆ 障害者の運動機会の提供

障害のある方も一緒に参加できる一般公開の実施など、身近な場所で、日常的に参加できる機会を拡充し、障害者がスポーツ・運動に親しむ機会の充実に取り組みます。

■ 関連計画

- ・ 目黒区スポーツ推進計画
- ・ 目黒区障害者計画
- ・ 目黒区子ども総合計画

施策② スポーツを通じた健康づくりの支援

■ 施策の概要

より多くの区民が身近な場所で継続的に健康づくりのための運動・スポーツを行える場と機会を充実させ、日常生活の中で運動習慣が根付くよう支援します。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、子どもから高齢者まで、また障害の有無にかかわらず、すべての人々がスポーツの効果を楽しみ、生涯を通じて健康で生き生きと暮らせるよう、関係事業者や団体等と連携しながら、スポーツを通じた健康づくりの支援に取り組んでいきます。

○関連する
SDGsの
ゴール



基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
運動習慣者（成人の1回30分以上、週2回以上）の割合の増加	34.5%	50%

■ 現状と課題

- 目黒区の高齢化率（65歳以上の人口比率）は年々上昇しており、今後もこの傾向が続くと予想されます。また、平均寿命は男女とも延伸を続けており、東京都や全国に比べて長く、東京都内区市町村の中でも上位に位置しています。こうした状況の中、区民一人ひとりが健康で生き生きと暮らすためには、寿命が長くなるだけでなく、心身ともに自立して生活できる健康寿命の延伸を図ることが重要です。
- スポーツには、体力の向上や生活習慣病の予防、ストレス解消など、心身両面にわたる健康の維持・増進に効果があります。スポーツを適切に継続することで、健康の維持・増進等を通じた健康寿命の延伸への貢献が期待されるため、運動習慣の日常化を図るための取組を進めていく必要があります。

■ 主な取組

◆ 身近な場における運動・スポーツ機会の普及

ラジオ体操、マラソン、ウォーキング、水中ウォーキング、アクアエクササイズ事業の実施等、地域で身近に運動・スポーツを行える場を提供し、生活の中で運動習慣が根付くよう支援します。

◆ 健康・体力づくり相談事業の推進

区民を対象に、個人の目的や体力に合わせた安全かつ健康・体力づくりができるよう、体育館に医師や管理栄養士等の専門スタッフを配置し、医療機器等を用いて相談・アドバイスを行います。

■ 関連計画

- ・ 目黒区スポーツ推進計画
- ・ 健康めぐろ21

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

施策③ スポーツを通じたつながりの創出

■ 施策の概要

心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、人格の形成、さらには人々や地域間の交流の促進に寄与するスポーツを通じて人と人とのつながりを創出することにより、スポーツ・運動の実施率の向上に取り組んでいきます。

関連するSDGsのゴールを踏まえ、目黒区は、人と人とのつながりを広げるとともにスポーツ・運動の実施率の向上を図るため、パートナーシップを強化しながらニーズを捉えた魅力的なつながりの場の提供づくりを進めます。

○関連するSDGsのゴール



■ 成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
	令和3年度	令和13年度末
参加した地域活動におけるスポーツ大会・教室などの「スポーツ活動」の割合	32.5%	40%

■ 現状と課題

- 地域活動は人と人とのつながりを広げていく上でとても重要な役割を担っています。第44回から第46回までの目黒区世論調査の結果を見ると、地域活動への参加経験者の中で、スポーツ大会・教室などの「スポーツ活動」の分野が上位となっており、参加しやすい地域活動の一つであるといえます。
- また、第45回目黒区世論調査（平成29（2017）年度実施）では、地域活動に参加したことはないが「参加してみたい地域活動」に挙げた分野として「スポーツ活動」の割合が最も高く、その関心の高さがうかがわれます。調査結果から、「スポーツ活動」は地域におけるつながりを広げていく上で大きな役割を担える可能性のある分野であるといえます。
- 一方で、第46回目黒区世論調査（令和2（2020）年度実施）では、「地域活動に参加しやすくなるために必要なこと」として、「参加活動の誘いやきっかけとなる機会の充実」や「関心のある地域活動があること」などの割合が高く、新しい生活様式を踏まえつつニーズを捉えた魅力ある「スポーツ活動」の実施に取り組む必要があります。

基本目標 2 人が集い活力あふれるまち

■ 主な取組

◆ 交流の場の創出

スポーツをすること、観ることを通じて、人と人とのつながりが深まり、地域活力の向上につながる効果が期待できます。様々な世代のつながりを広げていくため、「参加する」、「観る」ことができるスポーツイベントなどを実施することにより交流の場の創出に取り組みます。

◆ スポーツ指導者の育成

スポーツ・運動の魅力や素晴らしさを伝えていくスポーツ指導者は、スポーツを通じたつながりを広げスポーツ実施率の向上にも重要な役割を担っています。スポーツ・運動を行う様々なシーンでの活躍が期待されるスポーツ指導者、ボランティアを育成するための機会の充実に取り組みます。

◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じたレガシーの継承

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて実施した機運醸成事業は、スポーツ・運動を通じたつながりを広げスポーツ実施率の向上に資する取組であり、価値あるレガシーです。機運醸成事業を有効活用し、スポーツ・運動への関心を高め、つながりを広げ、実施率の向上に取り組みます。

■ 関連計画

- ・ 目黒区スポーツ推進計画
- ・ 目黒区障害者計画
- ・ 目黒区子ども総合計画

(このページは白紙です)